

# 幸小学校のESD活動

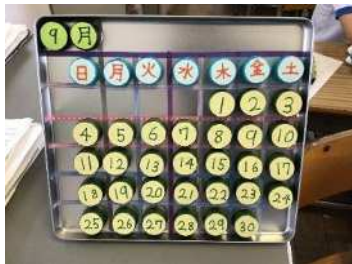
## <活動の概要>

当校は、「笑顔あふれる元気な学校」（思いやりのある子・すすんで学ぶ子・たくましい子）を学校理念として、地域や社会のさまざまな問題を捉え、実体験や調べ学習などを通して、ESDの実践を通して考える力の育成を目標としたESD活動を展開している。具体的には、①環境に係る学習、②福祉に係る学習、③防災に係る学習を行った。

## ・活動の実際

### ① 環境に係る学習

4年生は、環境教育の一環として、本市のごみ問題に着目し、学習に取り組んだ。一人調べとして、まず自宅の家庭ごみの種類や量の調査をした。ごみを11種類に分別していることを知り、各グループでその分別方法や処理の仕方を調べ、発表会を行った。そこで、ごみを自分たちの手でもっと減らしていかななくてはいけないことに気づくことができた。家庭ごみを減らす工夫として、ごみを別の物に作り変えて使う「リユース」という考えのもと、家庭ごみから出た物を便利な物に作り変えようと制作を行った。「マイベストリユース作品」と名づけ、互いに紹介し合った。学級活動でも、「もったいない」という言葉の意味を考える授業を行い、環境問題を自分ごととして考えることができる機会を増やすようにした。



① 4年生のマイリユース作品

### ② 福祉に係る学習

5年生は、体験活動を取り入れながら、福祉教育に取り組んできた。「ともに生きる」の副読本を活用しながら、福祉に関する知識や思いを深めた上で、いくつかの体験活動に臨んできた。高齢者体験では、高齢者の大変さを実感できる装具を身につけ、歩行することで、少しではあるが生活することの大変さを感じることができた。同様に、アイマスクをしての視力に障害のある方の体験、車いすに乗っての足の不自由な方の体験と体験を重ねることで、少しでも不自由な生活を送っている方々の力になりたいとの思いを高めることができた。出前講座「認知症サポーター養成講座」でも、講話やプレゼンテーションを使った説明により、認知症の方への知識を高めることができた。今後も、充実した福祉教育をすすめていきたい。



②狭い視界で歩行

### ③ 防災に係る学習

6年生は、「わたしたちと防災」をテーマに実践した。単元の導入は、市防災危機管理課の方に防災講話を聞いた。災害に対しての危機意識を高めたところで、その後、「南海トラフ地震から命を守ろう」と題し、調べ学習を行った。近い将来、起こると言われている大規模な地震を想定し、過去の災害における被害状況や、どのようなことに気をつければよいかを調べ、自助・公助・共助の意味を考えながら一人一人自分のテーマをもって新聞にまとめることができた。これからも「自分の命は自分で守る」ことを大切に防災意識を高めていきたい。



③応急手当の方法を学ぶ6年生